



92×57

5. 鎮西八郎為朝図 天明6年(1786)

上小埜 木戸八幡神社 (目録4)

源為朝は平安末期の武将で、身体巨漢で性は剛気、弓術にひいでていた。通称八郎と呼ばれ13歳で鎮西(九州太宰府)に渡り、各地を侵略し鎮西八郎と称された人物である。のち伊豆大島に流され、都からの追い討ち船を雁股の矢で討とうとする様を描く。当神社の流鏑馬行事にちなみ、弓名人の絵馬を奉納することによって武芸の向上を念じたものと思われる。



46×76

6. 女武者図 弘化3年(1846)

井出 立石不動尊堂 (目録2)

甲冑・弓矢で身を固め髪をたらしした女武者が、川辺で釣竿を手に行っているのは巴御前と思われる。巴御前は平安時代の木曾義仲の側室で、知勇にすぐれ、義仲と戦功をたてた女武者で、木曾川で幼少より釣りをしたという。この絵馬は豊漁祈願も付加してある。右側の欠損は堂内柱の木鼻部分をカットしたもので実物は完形である。